

保育の計画性

令和7年2月18日 若葉幼稚園

はい4、だいたい3、あまり2、いいえ1

1.園の教育理念・教育方針の理解		平均
園の教育理念や教育方針を理解している		3.0
園の教育方針に共感している		3.3
園の方針、園長の考えに基づいて園長や教職員と話し合っている		3.0
園の目指す子どもの姿を具体的にイメージできる		3.0
2.幼稚園教育要領の理解		
幼稚園教育要領を理解していると思う		2.8
幼稚園教育要領について、子どもの姿や環境の構成、教師の関わりなど具体的な事例を想起できる		2.7
幼稚園教育要領について、園長や教職員と話し合っている		3.0
3.教育課程の編成		
園の教育課程は、幼稚園教育要領の精神をふまえて園の教育理念・教育方針に従い編成している		3.0
園の教育課程を理解していると思う		3.0
園の教育課程をもとに保育の計画を立てている		3.0
園の教育課程は園長が中心となり、教職員と協力し話し合っている		2.8
園の教育課程は社会状況や子どもの実態、地域性などを考慮しながら必要に応じて見直しを行っている		2.8
4.指導計画の作成		
園の方針を指導計画や保育に生かそうとしている		3.3
指導計画は教育要領、教育課程、子どもの実態などをもとに考えて作成している		3.3
指導計画は子どもの興味や関心、これまでの生活の様子、予想されるこれからの生活などを考慮して作成している		3.3
長期の指導計画はマンネリ化しないよう、常に見直しを行い、子どもの実態や周囲の状況の変化に対応できるように作成している		3.0
短期の指導計画は子どもの実態に合わせて、自由に変更できるような順応性のあるものにする		3.3
指導計画は総合的な活動ができるように考慮して作成している		3.2
幼児の生活が豊かになるような行事を幼児の実態に合わせて精選している		3.7
5.環境の構成		
安全で清潔感のある環境構成をしている		3.8
指導計画に基づいて子どもが主体的に関わりたくなるような環境構成をしている		3.3
子どもが自ら活動を生み出していけるような素材との出会いを考えている		2.8
子どもが自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をしている		2.8
遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量を配慮して用意している		3.2
楽しい雰囲気の中で安定して遊びこめる環境構成をしている		3.2
子どもの活動がより豊かになるように活動の展開に応じて環境を再構成している		3.2
子どもの発想を柔軟に取り入れて保育室の装飾や展示を考えている		2.8
教師の願いや意図をもって環境構成している		3.3
幼児の発達や生活を見通して環境構成をしている		3.7
季節の変化に応じた環境構成をしている		3.5
異年齢の変化に応じた環境構成をしている		3.5
異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている		2.5
6.保育と計画の評価・反省		
自分の保育と計画の評価・反省は行うようにしている		3.8
評価・反省は観点を定めて行っている		3.0
自分の保育と計画の評価・反省について次の保育と計画に生かせるように行っている		3.7
自分の保育を他の教師たちにも見てもらい、それをもとに検討する		2.3
互いに保育を見せ合って検討し、評価・反省を加え、子どもの生活と自らの保育につなげている		2.7

保育のあり方、子どもへの対応

1.健康と安全への配慮

朝の登園時は特に視診を大切に子ども体調が悪くないかを確かめる	4.0
体調が悪そうときは静かに寝かせたり検温をするなど適切な処置を行いすぐに家庭へ連絡する	4.0
怪我や事故には特に気を付け、年齢に応じた適切な環境構成や言葉かけを行う	4.0
万一事故や怪我が発生した場合は園長に報告し、保護者に連絡を取り、医師に診てもらうなど適切な処置を行う	4.0
園内に危険な箇所がないかどうか、危険な遊び方はないか、活動が年齢や能力に対して危険でないかなどを常に観察する	3.7
危険が予測される場合は、子どもたちと一緒に見たり、考えたりなどして安全な使い方や遊び方について気付くことができるようにしている	3.5
クラスの中の水道付近の清掃や、換気、採光、室温などにも気を付ける	3.7
トイレの清掃やトイレの使い方について配慮し、子どもにも正しい使い方を具体的に示す	3.8

2.子どものみとりと理解

一人ひとりの子どもをよく観察するように心がけている	3.7
子どもの話をよく聞いたり言葉にならない思いやサインを受け止めるようにしている	3.8
子ども同士の関わりの中でその姿のうちにある心の動きについても推察するようにしている	3.5
見えないところで活動している子どもについてもある程度その活動の様子を推察することができる	3.3
一人の子どもをじっくりと見ながら周囲にも目を配ることができる	3.3
子どものこれまでの姿、いまの姿からこれからの活動のある程度予想することができる	3.3
個々の子どもの発達の姿や課題について見通しをもって理解できる	3.3
子ども同士の関わり方の姿を捉えることができる	3.5
子どもたちがいま興味や関心を持っていることがわかる	3.3
子どもを自分の一方的な感じ方や考え方で決めつけない	3.5
子どもの理解のために保護者と話し合うことがある	3.3
子どもの姿を家庭での生活をふまえて理解している	3.3
子どもの姿を多面的に捉えることができる	3.2

3.指導と関わり

共同作業者として

子どもに合わせて同じように動いてみたり、同じ目線にたつてものを見つたりしている	3.7
子どもの気持ちに共感しながら一緒によく遊んでいる	3.7
一人ひとりの子どもの思いを把握して寄り添いながら関わる	3.7
子どもからのアイデアをくみ取って遊びを深める	3.5

あこがれを形成するモデルとして

「先生のようにやってみたい」と子どもが思うようなモデルとしての姿を心掛けている	3.7
教師らしい品位のある言葉、正しい日本語の用法を心掛けている	3.5
子どもの心を傷つけたり人権を無視したりする言葉や態度、関わり方をしない	4.0
善悪の判断、いたわり、思いやりなどの道徳性を培ううえでもモデルとなる	3.8

心のよりどころとして

子どもの一人ひとりのありのままの姿を受け入れようとしている	3.8
子どもとのスキンシップを取るようにしている	3.8
子ども一人ひとりの良さを認めるようにしている	4.0
子どもの話をよく聞くようにしている	4.0

遊びの援助者として

子どもが遊びを深めていくためのヒントやアイデアを提供している	3.5
子どもの年齢に応じたわかりやすく聞き取りやすい語りかけ方をしている	3.7
子どもが行き詰っているときに適切な援助をしている	3.3
子どもが自ら考えたり工夫したりできるような見守り方をしている	3.3
子どもをほめたり、励ましたり、目当てを持たせるような言葉かけをしている	3.8

禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせることばや態度はできるだけ控えている	3.7
"一人ひとり"と"みんな"の関係を常に考えながら関わる	3.5
子ども同士のトラブルに対し、適切な対応ができる	3.3

その他

子どもの年齢や発達に応じた関わり方をしている	3.5
子どもの個性や性格、特徴に応じた関わり方をしている	3.3
子どもを無視したり体罰を加えることはどんな場合もしない	4.0
子どもの家庭環境やこれまでの成育歴などを考慮して関わる	3.7

4.保育者同士の協力・連携

クラスに関係なく、その場にいた教師が適切な言葉かけや対応をする	3.8
クラス的环境構成などについてもお互いにフランクに意見を交換する	3.8
子どものことについて常に保育者同士で話し合い、クラス、学年を超えて情報を共有する	4.0
教職員全体が全ての園児についてある程度理解しているよう様々な工夫をしている	3.5
指導上配慮を必要とする子どもについては園の教職員全体で特によく話し合い共通理解をもって対応するようにしている	4.0
他のクラスや異年齢の子どもたちと触れ合うよう様々な工夫をしている	3.0
他のクラスや異年齢の子どもたちと関われるよう、さまざまな保育の形態を取り入れている	2.7

保育者としての能力や良識・適正

1.専門家としての能力・良識・義務

専門家としての能力

幼稚園教諭として専門知識や技能を身につけている	3.2
より高度な専門知識や技能を身につけようと研修している	3.0
子どもの性格や個性を把握するよう努めている	3.8
保護者に対し子どものことや自分の保育のことを分かりやすく話すことができる、保護者の信頼関係を作ることに努めている	3.5
仕事の手順を考え能率よく行う	3.0
子どもが考え感じていることがある程度予測できる	3.3

良識とマナー

保育時間外でも保育者としての誇りと自覚を持った行動を心掛けている	4.0
幼稚園には自分自身のプライベートな生活を持ち込まない	3.8
子どもや保護者との対応には公平さを欠かないようにする	4.0
朝と帰りの挨拶は明るく親しみを込めてする	3.8
何かをしてもらったら感謝の気持ちを言葉で表す	4.0
園の消耗品や教材は節約して使い、後で使う人が使いやすいようにする	4.0
服装、髪型、身だしなみなど清潔感のあるものを心掛ける	4.0

義務

自らの健康にも配慮し、爪が伸びていないかなど、保育をする上での安全性にも気をつけている	4.0
子どもと保護者の顔や名前、性格などを覚える	3.7
幼稚園の電話やコピー、紙や教材などを私用に使わない	4.0
園の重要書類は持ち出さない	4.0
教材、教具の管理、点検に気を配っている	3.8
クラス内はもちろん、園内外の清掃や整理整頓を実行している	3.8
現金の管理は間違えないよう行う	4.0
締め切りのある仕事や提出物は締め切り日をきちんと守る	3.8
教職員や園の批判を軽はずみにしない	4.0

2.組織の一員としてのあり方

教職員全体でひとつのチームであることを意識する	3.8
-------------------------	-----

会議や打ち合わせは時間を厳守する	4.0
他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べることができる	3.7
自分の意見と異なる結果となっても議論の上決定したことには協力し実行する	3.7
会議の時は自分の意見や質問を前もって考えておく	2.8
子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談をする	3.7
当番や役割による仕事は確実に行う	3.8
教職員全員と親しく付き合い、偏った人間関係を作らない	4.0
上司の指示、命令には責任をもって実行する	3.8
上司や先輩に対しては敬語を用いて話す	4.0
教職員や園の批判を軽はずみにしない	4.0
教職員のプライバシーについてもこれを他へ漏らさない	4.0
園に関することについてはみだりに、または不正確なままに他へ話したりしない	4.0

3.保育者として保育の楽しみ・喜び

子どもと会話をしたり遊んだりすることが好きである	4.0
子どものささやかな成長が理解できてそれを喜ぶことができる	4.0
子どもと一緒に苦しんだり考えたりすることができる	4.0
子どもと一緒に生活を創り出すことが楽しい	4.0
特に配慮を要する子どもが望ましい方向へ変容していく過程を喜びに感じる	4.0

4.まわりを感じ取る感性・アンテナ

子どもや教育に関する情報を絶えずとらえようとしている	3.5
幼稚園や子どものことだけでなく、自然や社会の出来事にも興味がある	3.0
幼稚園の仕事の他に多様な趣味を持っている	2.7
自然に対する感性を持ち命の尊さを感じている	3.3
地域のことに関心がある	2.3